



ミンダナオ工場

開業当初は、京都本社で製造もしていました。1990年のバブル期に人手が足りなくなり海外での生産を考え始めました。翌年には、フィリピンのミンダナオに拠点をもち、同社の紹介で進出することになりました。始めは、広さ1500㎡、従業員が10名の工場でしたが、敷地が小さくなり2003年に6500㎡の現工場に移転し、今では、マニラを加えた2つの直営工場で合計350名の従業員が働いています。各工場に1名の日本人がいますが、工場の運営はすべて現地に任せています。2つの工場も役割分担し、ミンダナオ工場は建築土木、上下水道施設、住宅向けの量産品を、マニラ工場は、各種

海外の事業で大切なことは、一緒に事業をしようとして働いてくれる現地パートナーとのめぐり合わせです。我が社のフィリピン進出のきっかけも現地パートナーとの出会いからでした。また、環境が違うということも理解することも大切です。日本の常識は通じず、驚かされることも多々ありますが、その都度従業員に注意し指導してききました。また、コアと

最近、運賃等を考えると国内で製造した製品との価格差が縮小し競争が厳しくなっています。材料の仕入を日系の現地商社からアジア価格で仕入れるなど工夫をしてコスト削減に取り組んでいます。これからも、自社の企画提案型の商品作りという強みを活かし、様々な分野で社会に役立つものを提供していきたいと考えています。

### 海外事業展開のポイント

タンク、電気集塵機などの大型の製品を作っています。京都本社は、技術商社の役割で、従業員8名が商品の企画提案等の営業をしています。日本側で注文を受け、フィリピンの工場にオーダーを出し、そこで製造した商品を日本ならびにアジアの現地日系企業に納入しています。

なる人材を育てること、決定権のある人が現地に行くことも重要です。工場立ち上げ時には、フィリピンから従業員を短期間に交代で日本に引き、日本文化も含めて教育をしました。その頃の研修生達が、現在は現地で社長や工場長、主要管理職として働いています。また私は、月の半分はフィリピンに滞在し日本の状況を現地に伝えるとともに、フィリピン工場の管理者を監督しています。

アジアビジネスを  
レポート!

# 京都クロス Asia

京都からアジアに進出し活躍する企業と、アジアビジネス相談デスクアドバイザーからアジア各国を紹介します。

今回は・・・  
フィリピン進出企業  
REPORT

株式会社旭東樹脂  
代表取締役 山分 哲



所在地：京都市南区久世築山町 126  
TEL:075-931-5470  
事業内容：FRP(繊維強化プラスチック)成形品(製)

**First Industrial Plastic Ventures Inc.**  
所在地：フィリピンミンダナオ島 カガヤン・デ・オロ市  
設立：1991年6月  
事業内容：建築・土木・浄水・上下水道備向け複合材・FRP成形品(製)  
住宅設備・一般向けFRP量産製品(製)

**F.R.P. Philippines Corporation**  
所在地：フィリピンルソン島 ラグナ州(マニラ近郊)  
設立：1990年10月(2004年資本参加)  
事業内容：タンク・電気集塵機・脱臭塔・冷却塔などの各種耐蝕・耐食施設、プラント・鉱山施設向けFRP成形品(製)



●アジアビジネス相談デスクアドバイザー●

いしがき法務行政書士事務所  
石垣 久美子

### 外国人労働者受け入れ時の留意点

日本国内で外国人を「人文知識・国際業務」「技術」等の在留資格で雇用する際には、種々の要件をクリアする必要があります。その中でも「報酬」「学歴」要件についての留意点は以下の通りです。

「報酬」においては、「日本人と同等額以上の報酬」が必要となります。しかし、一律に判断されるわけではなく、個々の企業の賃金体系を基礎に日本人と同等以上であるか、同業他社の賃金を参考にして日本人と同等額以上であるかが判断されます。「学歴」の要件を満たす代表例の「大学を卒業」は「学位」を要します。中国の大学の中には卒業しても学位の与えられないものも存在しますので、「学位」の有無を確認することが重要です。就労できる在留資格の取得には多くの要件がありますので、1つずつ精査していくことが必要です。

アジアビジネス相談デスク 専門アドバイザーによる個別相談室です。お気軽にご利用ください。

お申込み・お問合せ 京都商工会議所 アジアビジネス相談デスク(産業振興部内)  
TEL 075-212-6442 URL://www.kyo.or.jp/management/asiabusiness.html